

キクのみカンキイロアザミウマの省力的薬剤防除

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

ミカンキイロアザミウマは各種作物において難防除害虫とされており、本種に対する散布薬剤の効果については普及に移す技術(第76号及び77号)「参考資料」で示した。今回、キクにおいて薬剤の簡便な処理による防除効果を確認したので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) ダントツ粒剤(クロチアニジン)またはベストガード粒剤(ニテンピラム)を株当たり2g、生育期の前半に株元の地表面に散粒処理することで、処理後約40日間、ミカンキイロアザミウマの密度を抑制することができる(図-1)。
- 2) アクタラ顆粒水溶剤(チアメトキサム)を、10a当たり300gを300~1,000リットルに希釈し、灌水チューブを用いて灌注処理することで、処理後約30日間、ミカンキイロアザミウマの密度を抑制することができる(図-2)。
- 3) 処理時期はミカンキイロアザミウマの発生前か発生がわずかに認められた時期とする。

3 利活用の留意点

- 1) 今回供試した薬剤と同一成分の散布剤では、ミカンキイロアザミウマに対する防除効果は不十分である(普及に移す技術第76号、77号)。
- 2) アクタラ顆粒水溶剤を処理する場合、薬剤が圃場内に均等に処理できるように処理水量を調節する。
また、液肥混入装置を利用して処理する場合は、一次希釈液の希釈倍数が30倍より薄い濃度になるようにする。
- 3) 蚕に影響があるので、桑に付着するおそれのある地域では使用しない。

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題及び研究期間 農作物有害動物発生予察事業
平成13年～
- 2) 参考データ

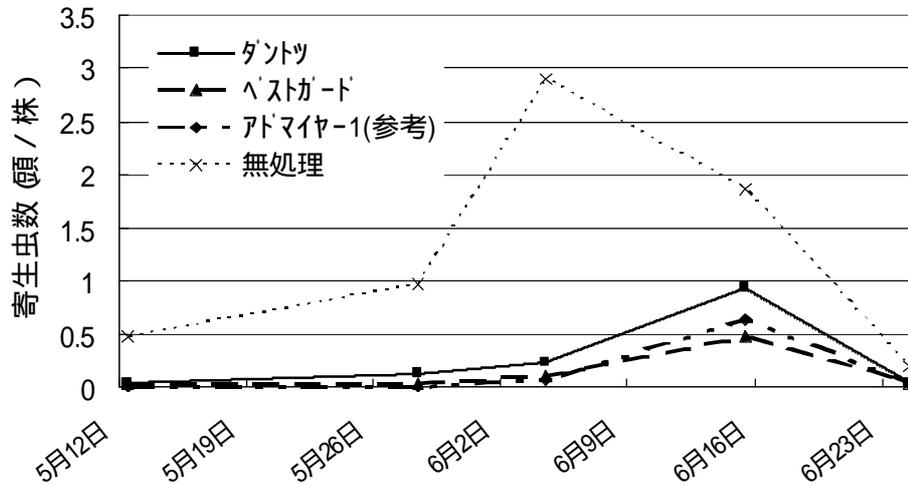


図 - 1 キク（露地）のアザミウマ類に対する各粒剤の効果（2004年）
 （品種：スーパーハイター、深志の匠、夏精王 定植：4月26日
 処理：5月7日、株元に散粒。
 主要種はミカンキロアザミウマで、その他はヒメアザミウマ。
 アドマイヤー-1粒剤はミカンキロアザミウマのみに登録。）

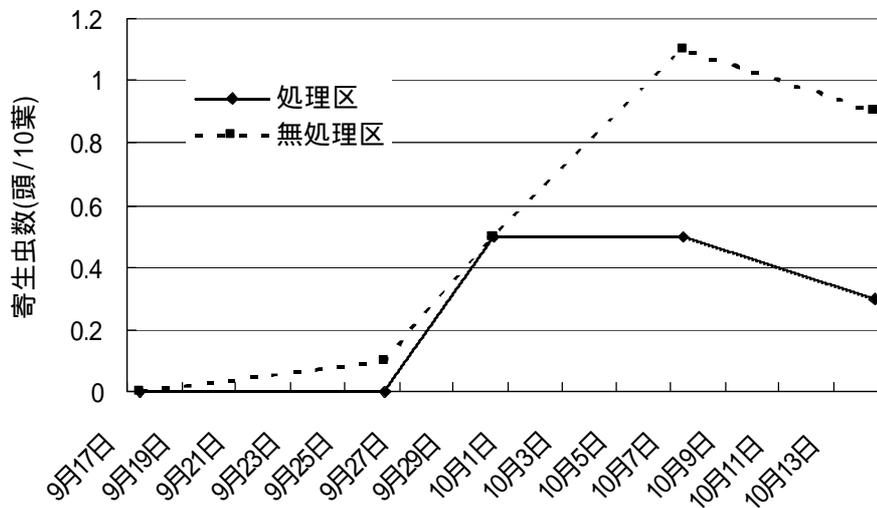


図 - 2 キク（施設）のミカンキロアザミウマに対するアクタラ顆粒水溶剤の効果（2003年）
 （品種：精祝、白扇、精海 定植：7月1日
 処理：9月17日、灌水チューブで300g(300リットル)/10aを灌注)

3) 発表論文等

第49回日本応用動物昆虫学会（2005年）にて発表